

1. 開催日時 平成 30 年 6 月 3 日 15 時 15 分～17 時 15 分
2. 開催場所 北海道大学学術交流会館（北海道札幌市北区北 8 西 5）
3. 有効出席数 正会員総数 1,613 名中 997 名（内 当日出席者 110 名、議長委任者 834 名、書面表決者 53 名）
4. 審議事項、議事の経過の概要及び議決の結果

<議長の選出>

定刻、当法人定款の規定により、中野事務局長が議長の選出について出席者に諮った結果、総会に出席した正会員の中から 金平嘉則 さんが議長に推薦され選出された。議長は総会の開会を宣言、事務局より正会員総数、有効出席数、書面表決結果の報告を行い、議長は本総会が適法に成立する旨を宣した。続けて、議事録署名人の選出について出席者に諮った結果、杉田恵子 さん、谷口慎司 さんが選出された。また、本日出席の理事・監事の紹介があり、議案の審議に入った。

<第 1 号議案> 平成 29 年度事業報告並びに決算及び監査報告について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、亀井理事より事業報告の説明が、加藤理事より決算の説明があった。また、長橋理事・小藤監事より、「監査の結果、法令及び定款に違反する重大な事実はなく、財産及び収支の状況はいずれも適正妥当であった」との監査報告があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

<第 2 号議案> 平成 30 年度事業計画並びに予算について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、平井理事より事業計画の説明が、鳥羽理事より予算についての説明があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

<第 3 号議案> 平成 30 年度役員の選任について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、酒井理事より、平成 30 年度の理事として荒金雅子、加藤貴美子、亀井直人、小池秀裕、鳥羽秀人、中西百合、中野功、平井雅、山根弘和、竹本記子、本宮大輔が提案された。あわせて、監事に長橋良智、小藤輝正が提案された。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

<第 4 号議案> 定款第 16 条の変更について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、中野理事より、現状の運営体制と特定非営利活動促進法の改正に則した内容にするため、定款第 16 条の変更に関する議案の説明がなされた。

(2) 審議結果

質疑応答の後、議長より挙手による意思表示を求めたところ、当日出席者の挙手による賛成が 108 名、反対が 0 名、棄権 0 名であり、議長委任（834 名）と書面表決（賛成 50 名、反対 3 名、棄権 0 名）を加えた結果、賛成が 992 名、反対が 3 名、棄権が 0 名となり、出席者の 4 分の 3 以上の多数にて承認された。

以上をもって本日の議事は終了し、議長は 17 時 15 分閉会を宣した。

2018年6月3日

住所 東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目12番8号
名称 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

以上、本会議の議事及び結果が正確であることを証するため、議事録を作成し、議長及び議事録署名人はこれに署名捺印する。

2018年6月3日

議 長 金平 嘉則

議事録署名人 杉田 恵子

議事録署名人 谷口 慎司

<第一号議案>平成 29 年度事業報告並びに決算及び監査報告について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

意見：FAJ の組織の在り方を見直していると認識している。これまでテーマ型サロンやセミナー委員の体制を整えてきた。ファシリテーションサポート委員会についても、地域コーディネーターの体制の話もあったが、一度振り返る機会を設けてほしい。

意見：テーマ型サロンは、戦略的に作った組織だと思うが、予算の使い方は目的に合っていたのか、その効果があったのかについて報告してほしい。

<第二号議案>平成 30 年度事業計画並びに予算について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

意見：広報戦略について、「広げよう」でなく、「広まるにはどうしたらいいか」を考えたほうがよい。

質問：個人寄付金について、29 年度は九州北部豪雨で寄付金を募った。継続的な寄付文化を醸成することを考えてのことか？

回答：寄付文化の醸成は必要だと思っておりますが、予算を大きく下回る執行状況のなかでは、積極的には踏み切れていません。執行の在り方とあわせて考えていきます。

質問：P19 の 3 で「適切な人材を FAJ で発掘しながらファシリテーションを活用した支援を目指します。」とあるが、「適切」とはどういうことなのか、また誰がどのように判断し発掘しているのか。

回答：特に明文化していませんが、依頼主からのニーズに合った場作りができる専門性や、分野経験などを中心に、ファシリテーションサポートデスクのメンバーが案件ごとに拠点長などへヒアリングしながらファシサポの趣旨に賛同できる方を人選しております。

質問：予算書の集計ミスがなぜおきたかの説明が欲しい。

回答：補遺資料の P7 No. 56 について、テーマ型サロンの部分に明細の修正について記載をしています。修正の理由は予算書の内訳のテーマ型サロンの科目の振り分けで誤ったことと、テーマ型サロンの予算を積み忘れていたミスによるものです。

意見：あり方を考える場づくりについて、やりたい人が集まってやるのは聞こえはいいが、やりたい人がやりやすい仕組みになることが多い。実際は積極的な人がなかなか出てこないと考えるが、そういった人を巻き込む方法は考えてほしい。FAJ の縮図のような組織を作って考えたらよいのではないかと考える。

質問：予算の総会関係費用の内訳は何か？シンポジウムの費用ではないのか？

回答：事務手続き、外部委託部分の費用となります。シンポジウム等のイベントにかかる費用ではありません。もし来年、シンポジウム等のイベント開催するのであれば、来年度予算に計上されることになります。

意見：全国イベントが新しくなるということだが、リアルによる交流はよい。ぜひ来年もやってほしい。

意見：FAJ の強みをいかし、継続していくには、指標化が大事ではないのか。インパクトを届けることはできたのか総括してほしい。

意見：今後 FAJ としてより開いていくためにフェローを外部からも積極的に起用したい。そのためフェロー制度を改善してほしい。個人的には 1 年以内で作ってほしいと願っている。

質問：予算書のシンポジウム費用が計上されているがこれは今回のシンポジウムのことか？

回答：その通りです。

質問：組織運営見直しと言うからには、なんらかの理由があると思うが、その点どう捉えているか教えて欲しい。

回答：(FAJ における) やり方が硬直化しているのではないかと議論がありました。なぜそうなったのか、また、社会的インパクトを FAJ が与えること、大きな目標に向かって進むことについてどうやったらいいのかということ（会員一人一人と）一緒に考えていきたいと思っています。

<第三号議案>平成30年度役員を選任について
(議事なし)

<第四号議案>定款の一部変更について
(議事なし)

<その他意見、質疑応答>

意見：総会資料をもっとわかりやすくしてはどうか。総会説明もグラフィカルにパワーポイントを使用する等、ファシリテーションらしい資料にしてほしい。

意見：ソーシャルインパクトは「評価に対する評価」の段階に入っているが、そこで論点となっていることの1つに、「社会の外からインパクトを与える」という発想自体の問題がある。すなわち、「ともに社会をつくる」のではなく、「する-される」という関係性を固定してしまうのではないかという疑念である。ファシリテーションのインパクトを考える際にも、このような視点は重要であると思われる。

意見：今年度は一次候補者が4名いたと思うが、一次候補者がどのような考え方で、その他の候補者を選んだのか、その理由を公開してほしい。

意見：インパクトがあったかどうかの評価については、FAJの個々の会員が入会してからどのように成長、どういふことを体現したかをわかることも大事ではないか考える。基礎セミナー以外でも個人が成長できるようなプログラムを検討してほしい。

以上